

## 2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 10 日作成)

小委員会名	昼光照明ハンドブック刊行委員会	
主査名	岩田利枝	
就任年月	2005 年 4 月	
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (企画刊行運営委員会)	委員長名：加藤信介 主査名：吉野 博
設置期間	2005 年 4 月 ~ 2007 年 3 月	
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の技術や状況に合わせた昼光照明の設計資料を整備する</li> <li>・実務者を対象とし、かつ昼光照明の根本的な意義と理論を包括した将来的状況にも対応できる書物を刊行する</li> <li>・2007 年春刊行に向けて、原稿を執筆する</li> </ul>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有	
	岩田利枝(東海大学)、鈴木広隆(大阪市立大学)、古賀靖子(九州大学大学院)、戸倉三和子(独立行政法人建築研究所)、望月悦子(早稲田大学)、北谷幸恵(北海道立北方建築総合研究所)、山田浩嗣(住友林業(株))、登石久美子(フリー)、山崎恵司(Arup Japan)、岩井彌(松下電工(株))、村上昌史(松下電工(株))、河野匡志(東京電力(株))、大山能永(大成建設(株))、浅田秀男((株)宇梶環境研究所)、本間睦朗((株)日建設計)、伊藤大輔(東海大学大学院)、平松徹也(旭硝子(株))、林達也(森村設計(株))	
設置 WG (WG 名：目的)		
2006 年度予算	200,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 各執筆者から原稿を集めた 2. 不足情報、データを外部執筆者に依頼し、原稿を集めた 3. 2007 年 3 月末に脱稿、7 月には出版予定
委員会活動の問題点・課題	1. 現在、全体の内容を調整、編集中 2. 引用する図表・データの著作権を確認する

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

## 2006 年度 小委員会活動 自己評価

### (最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A      (B)      C      D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>本委員会は刊行を目的として設置された委員会なので、達成度は進捗状況とその内容で測られる。</p> <p>刊行物は</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実務者を対象としている</li> <li>2. 近年の技術や状況に合わせた昼光照明の設計資料を整備</li> <li>3. 昼光照明の根本的な意義と理論を包括した将来的状況にも対応できる書物を目指している。</li> </ol> <p>現時点で集められている各原稿は上記の目的に沿ったものだといえる。</p> <p>しかし、刊行物として考えたときの内容の過不足、整合性などの問題により、全体の編集や調整に予想外に時間がかかったため、当初予定していたスケジュールより遅れ気味である。かなりゆとりを持ってスケジュールを組んでいたため、まだ余裕があるが、反省すべき点として、達成度は70%と考えた。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。